

平成17年(ワ)第87号, 平成18年(ワ)第16号 遺伝子組換え稲の作付け禁止等請求事件

原告ら 山田稔外22名

被告 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

平成19年3月27日

新潟地方裁判所高田支部

「鑑定事項及び送付資料」(案)の送付について

鑑定事項及び送付資料を作成しましたので, 4月13日までに書面にてご意見を
いただきたく, よろしくお願ひいたします。

平成17年(ワ)第87号, 平成18年(ワ)第16号 遺伝子組換え稲の作付け禁止等請求事件

原告 山 田 稔 外 2 2 名

被告 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

鑑 定 事 項

- 1(1) 水田水（平成18年9月19日に北陸研究センター隔離圃場において遺伝子組換えイネの株元から採取したもの。）からカラシナ・ディフェンシン（以下、単に「ディフェンシン」という。）が検出されるか。
- (2) 上記1(1)において、ディフェンシンが検出された場合、その量はいくらか。
- 2(1) 遺伝子組換えイネの体内において生産されたディフェンシンは、その茎葉から体外に漏出するか。
- (2) 上記2(1)において、ディフェンシンが漏出すると認められる場合、その量はいくらか。

付記事項

- 1 上記1に関する実験方法について特段の指定はありません。したがって、鑑定に当たっては、別添した各当事者の実験方法に関する意見を参照の上、貴方の裁量にて適切と考えられる実験方法を策定して実施してください。
- 2 上記2に関する実験は免疫測定法によって行うこととし、その具体的方法については、別添した各当事者の実験方法に関する意見を参照の上、貴方の裁量にて適切と考えられる実験方法を策定して実施してください。
- 3 鑑定結果と併せ、貴方が採用した実験方法やその科学的根拠についても説明してください。

以上

送付資料（案）について

送付資料について、原告らの提案分としては2006年12月31日付け原告準備書面(17)（表紙を除く。）を、被告の提案分としては平成19年1月22日付け準備書面(26)の各別紙（別紙被告提案実験3「生物検定法」を除く。）及び平成19年3月22日付け準備書面(35)の別紙3をそれぞれ送付することを予定しています。